

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000835		
法人名	特定非営利活動法人 すばる		
事業所名	グループホーム すみれ		
所在地	北海道北見市留辺薬町花丘22番地31		
自己評価作成日	平成29年10月5日	評価結果市町村受理日	平成30年1月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigvosyoCd=0175000835-008
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成29年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大自然の中に囲まれた平屋の木造作りで、温泉街の近くに位置しています。入居者の方と一緒に旬の作物を収穫し楽しんでます。近くの「山の水族館」への見学や、北見の「菊祭り」へ参加など楽しんでます。入居者さんの要望によりご家族様に会いに行く支援も行っております。日常生活では入居者の方とスタッフが支えあい生活しておりますので、掃除や洗濯は参加できる用入居者の皆さんと一緒にっております。これから介護を目指す高校生の実習受け入れや、実習先への訪問などにも力を入れています。スタッフの年齢も幅広く、様々な角度からその方の生活に寄り添った支援ができます。入居してから終末期まで安心して過ごせるホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

留辺薬町温根湯地区の山あいの自然に恵まれた環境に位置した平屋建て1ユニットで運営しています。現在介護業界では人材確保が難しい中で、管理者はインターネットを活用して職員確保に努め自らも現場に入り風通しのよい職場作りを推進しています。開設時からの理念「長い人生の主役です 自分らしく ゆっくりと のんびりと」を職員は共有し、日々の介護の基本として実現を目指して取り組んでいます。利用者の受け入れもきめ細かく希望や尊厳を重視した暖かい介護を実践しています。毎日のケアでは歌や体操で生活にメリハリを持たせる工夫や家族も参加する季節毎の行事を取り入れ、利用者と一緒に過ごせる楽しい時間を充実させています。管理者は今年度介護を目指す地元高校生の実習の受け入れや実習先の高校で講師となって認知症の理解を広げる等、地域貢献に努めています。事業所の方向性を明確にし看取りも行っており、常に利用者・家族の視点に立ち、管理者・職員一丸となって利用者の心情に寄り添いながらその人らしい暮らしを支えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有についてホーム内に掲示し、会議等で理念を共有している。	開設時からの理念を事務所・居間等に掲示し、管理者・職員は介護の基本として共有し実現を目指して取り組んでいます。常に自分がされていやなことはしないを意識しながら利用者に向き合っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会には参加しているが、地域のイベントの参加や、地域の一員としての参加は高校の実習先へ参加や「菊まつり」の参加をしている。	町内会に加入し忘年会等で交流を図り事業所への理解や災害時の協力関係を築いています。地元高校生の実習の受け入れや管理者が講師となって実習先の高校へ出かける等、地域貢献に務めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生の受け入れ実習や施設見学などを積極的に行い地域に向けて認知症の理解や現状について地域の人々に向けて活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会の年6回までの開催までは達成していないが、会議等では十分にホーム等の取り組みやサービスについての話し合いが出来ている。	地域包括支援センター職員・地域住民代表・議題により消防職員の参加を得て2ヶ月毎定期的に開催し事業所の状況説明等で意見交換に努めています。家族の参加が得られていない状況になっていますが、家族の来訪時に声かけ参加を促しています。	今後も家族に運営推進会議の意義等を十分に理解してもらい、積極的に参加が得られる工夫と情報の共有を図り、サービス向上に活用していくことを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に、事業所の状態を報告し、ケアサービスの取り組みを伝え、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の担当者や地域包括支援センター職員とは常に連携を図り、情報交換やアドバイスを受ける等、協力体制を整えています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアル等成し、玄関の日中施錠はせず、不安定な入居者の方に対しては、環境を整えるなど、身体拘束は基本的に行わない方針で取り組んでいる。	身体拘束の弊害についてはマニュアルの整備や内部研修を行い、共通理解を深めています。利用者の状態や疑問がある時はその都度話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、言葉の虐待や、身体的虐待、ネグレスト等を全員が理解出来る様再度会議等で周知出来る様努めている。変色等ある時はヒアリーハット等に記載している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解と活用についての話し合いは、まだ十分に出来ておらず、外部や内部研修での理解が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の結末は入居時と、その都度変更になった場合は、文章と説明を行い理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会(運営推進委員会の参加)を設け、それらを運営に反映させている	家族とのコミュニケーションを大切に多くの家族が参加する行事や来訪時の会話の中から意見・要望を聞いたり、ラインツールを活用して連絡を取り合い運営に活かしています。又、ホームだよりで事業所の状況、利用者の様子を伝えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見や提案を聞く機会はあるが、職員の満足度は五分五分であり、これから提案できる機会が十分に出来る様努めていきたい。	管理者は職員の採用時に事業所の方向性を明確に伝え、働きやすい職場作りに努めています。毎朝のミーティング・月1回のケア会議・今年度の自己評価を通じて職員の意見・要望・気づきを運営やサービスの質の向上に取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は出来る限りの範囲で職場環境・条件等の整備に努め、キャリアアップ制度の改正をし給与水準が明確に分かるよう表に示している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の参加に力を入れており、全員研修に参加出来るよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の同業者の交流や勉強会は「外部研修」でのみおこなっており、これから他の施設等の交流も進めてゆきたい。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が必要としている支援を見極め、福祉用具など他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物、台所の片づけなど共に共同で行い入居者の方の助け合いも見守りしながら、関係作りをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際には、日々の様子をご家族へお伝えし、関係作りに努めている。(職員全員が説明出来るよう努めている)		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	何時でも気軽にホームに来ていただける様な雰囲気作りにも努めている。	友人・知人の訪問や馴染みの商店へ出かける等、利用者のこれまでの関わりが途切れないよう取り組んでいます。又、家族の協力を得ながら自宅で過ごせる時間もサポートしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方達の関係がより良好に生活出来る様、利用者の方同士自然と出来ない事に対してお互い助け合う姿勢を大切に、見守りながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても何かあればフォロー出来る様、経過を管理側でフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや、暮らしの希望に沿って自立した生活が出るよう様々な角度から支援できるように努めている。	管理者・職員は利用者との日常の関わりや会話の中で思いや希望の把握に努め、家族からの情報も得ながら利用者の心情に寄り添った支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活等は、情報にまとめて、把握出来る様に努めている。都度新しい情報は付け加えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの心身の状態やできる事の可能性を常に把握し、記録などに残している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、関係者と話し合いながら、現状に即した介護計画を作成している。毎月会議等での話し合いも行っている。	利用者・家族・関係者の希望を取り入れた本人らしい介護計画を作成し、3ヶ月毎にモニタリング・見直しを実施しています。毎日のサービス提供状況が把握できるようケアプランチェック表を作成し、介護計画の見直しに活かしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の様子や気づきを記入し、ケアプランに沿って介護が行えているか、毎日チェックしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状態に応じて、都度ミーティング等開きサービスの多様化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や、買い物等で本人が、力を発揮しながら安全で豊かな暮らしが出来る様支援しているが、限られている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の方には、馴染みの病院にかかるよう出来るだけ希望に沿った支援をしている。状態に応じて往診も受ける体制も出来ている。	受診は従来のかかりつけ医と、事業所への訪問診療を行っている診療所で受けており、希望に沿った支援をしています。毎月二回の訪問診療と緊急時の往診を受けている他、月二回の訪問看護により健康管理が行われています。受診は職員が同行して状態を報告し安心の体制構築がなされています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問看護を受けており、その都度健康管理や、変化について相談し助言や協力体制を作る事が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、利用者の情報提供書で状態を伝え、安心して早期退院出来る様関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアを行っており、重度化や終末期に向けて家族、本人、主治医と話し合いチームでケアを行っている。	重度化や終末期については指針を作成しており、契約時に説明を行い理解と同意を得ています。基本的に事業所は看取りを行っており家族、医療機関、事業所と連携を取って利用者のその人らしい生き方の支援を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	その都度ミーティングでの話し合いとマニュアルを作成しているが、救命救急などの定期的な訓練は乏しく職員の不安もある。今年度は内部研修での救命救急訓練を予定している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は、連絡網等で整備されており、火災避難訓練等にも参加して頂いているが、災害等のマニュアルは作成しているが、訓練はまだ数回しか行っていない。	火災避難訓練、停電対策、冬季間雪害対策、クマ対策と危機管理対策を行っています。避難訓練時にはスモークマシンでの体験や消火訓練に取り組んでいます。緊急連絡網には多数の近隣住民の協力を得ています。	多くの災害対策に取り組んでいますが、避難訓練での近隣住民の参加がなされていません。住民の協力を得た訓練実施を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格やプライバシーを確保し、言葉かけや対応をしている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、羞恥心のおきない配慮した対応を心掛けています。呼称は苗字にさん付けを基本としていますが、家族にお伺いをし親しみの呼びかけも行なっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どのようにしたいか希望を必ず聞いて自己決定出来る様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり全員は難しいが、その日をどのように過ごしたいか、促しかけて希望に沿うよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう、髪型や服装には気をつけ支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に片付けや、食事を共に行っており、好みに応じて食事内容を変更するなど楽しく食事が出来る様工夫をしている。	献立は管理者により一年分のレシピが用意されておりその中から選択して調理を行っています。利用者の希望は行事ごとに反映されており家族の参加も得ながら楽しい食事と成っています。最近では食材注文はカタログで行い時間節約に繋がっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量などは温度板で把握しており、状態に応じてお粥や、ミキサー・トロミをつけるなど柔軟な対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促しており、誤嚥や口腔内のトラブルがないように努めている。口腔ケアも出来るだけ自立して出来る様支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の失敗が少なくなるよう、トイレでの自立に向けた支援を行っている。	温度板管理で時系列で排泄記録を取っており、パターンを把握して失敗を少なくする様に取り組んでいます。また、おむつやパット等羞恥心のおきる物は人目につかない様交換を行っておりプライバシーに配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、全員の排便状態の確認をし運動、医師、ご家族と相談しながら予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状では、自立して入浴できる方は少なく、午後からの入浴介助で行っている。週2回以上は入浴出来る様工夫している。	週2回の入浴介助を行っています。浴室は広く十分な洗い場や浴槽が有りゆったり入ることができます。一対一の介助を基本としており、終末期の利用者は清拭を行って清潔を保っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠状態を温度板で把握し、対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方箋を別途用意しており、何時でも確認出来るようになっている。服薬のマニュアルも用意している。事故が発生した時は早急に対策し、再発防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年間行事や誕生会など、少しの時間でも「楽しかった」と思えるようにレクリエーション等の工夫をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事等では、出来るだけ全員参加できるよう努めている。外泊希望されている入居者やご家族には出来るだけ協力し自宅を過ごせる時間を作るよう支援している。	事務所の周りは木々に囲まれクマ対策をする位ですが、自然環境に恵まれています。外に出掛ける行事は年間計画で予定され、家族の参加を募って楽しめる様取り組んでいます。終末期の利用者の希望で外出し思い出作りを行う事も楽しい時間を共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族には、入居者の方の自己管理で、紛失しても良い金額で了解を頂き自室でお預かりしている。買い物へ行ける入居者の方は見守りで行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員を通じて、電話やお手紙のやり取りが出来るよう工夫している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱が無いように壁紙や光に気を使い心地よく過ごせるよう努めている。	木造平屋の空間はゆったりと配置されており、オール電化でクリーンな環境の中で生活しています。行事の写真、皆で作成したペーパーフラワーを飾りふんわりとした雰囲気を醸し出しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った人同士で過ごせるよう、入居者の方の関係性に配慮しながら、ソファの席へご案内をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物で安心して過ごせるよう、ベッドと福祉用具以外は今まで使用していた物を用意して頂いている。思い出の写真等も飾っている。	利用者一人ひとりの居室は家族の写真やお孫さんが描いた絵を飾り持参の家具で配置して居心地よく生活できるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は、出来るだけ自立した生活を送れるよう季節の飾りや、行事の写真等飾るなど工夫し、手すりや、必要に応じて福祉用具を使用している。		